



フィールドノート

2022年6月～12月

Slack「東由木地区公園自然情報チャンネル」への
投稿より抜粋。6月～12月の自然観察記録。

ノハラナデシコ 2022.6.18

堀之内番場公園トイレ付近から大栗川に出てすぐの堤防草地で、ノハラナデシコを数個体見つけました。

ヨーロッパ原産で砂防用植物の種子に混ざって渡来した帰化植物です。八王子でもこれまでに何度か見っていますが、由木では古い標本記録があるのみで初めて見ました。どうも最近はあまり見かけない存在になっているらしく、一年草で、他の雑草に負けて消えやすいのかもしれませんが。

お馴染みのムシトリナデシコよりも、凜とした佇まいが素敵です！



オオボウシバナ 2022.8.1

秋葉台公園のグラウンドのそばにオオボウシバナが咲いていました。
ツユクサの栽培品種で、花はだいぶ大きく、茎も直立して迫力満点！



サンカクヅル 2022.8.16

長池公園内特別保全ゾーン最奥部で倒れかかっていたキブシに、サンカクヅルの大株が絡んでいました。
葉裏脈上にたくさん毛が生えていますが、褐色のクモ毛ではないのでウスゲではなく普通のサンカクヅルだと思います。



アオスジハナバチ 2022.8.16

来館者の老夫婦から「自然館前のサワギキョウにいたこのハチは何ですか？」との質問があり、写真を拝見するとアオスジハナバチでした。

1年前の8/11にも姿池斜面地で本種を確認していましたが、久々に対面したくなり、見てきました。すぐに、サワギキョウの周りを素早く飛び回る2頭のアオスジハナバチが目にとまりました。

個人的には、青い蜂の代表格として人気のオオセイボウやナミルリモンハナバチより、本種の秘めやかな色彩美に魅力を感じます。



ツノハシバミ 2022.8.23

6/13に東由木では初めて傘平緑地(飛び地)で見つかったツノハシバミ。

2ヶ月ぶりに再訪してみると、待望の果実ができていました。

日本版ヘーゼルナッツと言われるほど美味しいので、秋に中身を取り出して食べてみたいと思います。



サウトウガラシと湿生植物 2022.9.4

巡回中に堀之内寺沢里山公園でサウトウガラシ(南多摩 CR)が復活しているのを見つけました。(最初の2枚)
U園長による2008年9月29日の同所での記録を最後に、由木では幻となっていたものであり、14年ぶりの確認です。
以前、ため池を掘り直したすぐ脇のヨシ湿地内に大小20株ほど生育、この日に花は見つけれませんでした、
閉鎖花の果実と思われるもの以外に、開放花の蕾と思われるものもあり、足繫く通って何とか開花を拝みたいです。
(追記:後日、知人のAさんにより開放花が確認・撮影されました。自身はタイミングが合わず…)
周囲にはミズニラ、キクモ(3枚目)、ミゾハコベ、エダウチスズメノトウガラシ、アゼトウガラシ、コシロネ、ヒナガヤツリ、ヒンジガヤツリ、ホタルイ、ヌマトラノオ、エゾノサヤヌカグサ、ミズ、ホシクサ sp.なども発生しています。
ため池を掘り直した際に周囲の泥が攪乱されたことで、複数の湿生植物の発芽が促されたのかもしれませんが。



マキエハギ 2022.9.6

今年はマキエハギの当たり年。長池でも駐車場周辺や夕日展望台など至るところに出てきています。草刈作業中、東中野公園の林縁芝生に咲いているのを発見して刈り残しました。松が谷では2例目です。



カラスウリ 2022.9.8

先日、東京海上日動グラウンドと長池公園の境界部を歩いた際、見事に蕾を付けたカラスウリの群落を見つけました。場所はテニスコート裏の擁壁直下、長池公園側の林縁です。

そこで、8日の鍵閉め後に開花状況を見てきました。9月に入って日が短くなったため、19時前からすでに咲いており、真っ暗闇に浮かび上がる無数の花は圧巻の一言でした。

なお、カラスウリの花は雌雄異株で夜に咲き、主な送粉者は夜行性のスズメガ、明け方には萎んで落ちてしまう一日花だそうです。



ニホンイタチとヤマカガシ 2022.9.9

特別保全ゾーン内のアメザリ捕獲装置付近でニホンイタチと遭遇！他では何度か見っていますが、長池で出会ったのは初めてです。オコジョみたいにぴょんぴょこ走って行って可愛かったのですが、写真は撮れず。くわえて、長池の浅場で美しいヤマカガシの死骸を回収しました。



ナンゴクヒメミソハギ 2022.9.12

長池公園の水田内にはアブノメやキカシグサをはじめ、多くの水田雑草が生えています。

その中でひときわ背丈の高いヒメミソハギ類(ホソバヒメミソハギ・ヒメミソハギ)の中に、「ナンゴクヒメミソハギ」が混生していることに気が付きました。今週3種目の由木地区新産植物です。

花はホソバヒメミソハギとよく似ていますが、花柄が明瞭で細長いことが特徴です。

葉の形はホソバ〜よりやや丸みがあり、ヒメミソハギとホソバヒメミソハギの中間的な印象。

ナンゴク〜の茎の稜には翼があるとのことですが、その点についてはよくわからず・・

※ホソバヒメミソハギ自体がナンゴクヒメミソハギと別種(*A. robusta*)の交雑または倍数化に由来する種とする説もあるそうです。

ヒメミソハギ類の検索が載っている URL をメモしておきます。

https://waterplants.web.fc2.com/fieldnote_vol2.html



ナガボノシロワレモコウ 2022.9.14

今年も堀之内沖ノ谷戸公園のナガボノシロワレモコウ(中国産種子吹付由来)がそよそよと咲いていました。そよそよ繋がり、はぐくみの森法面のアオチカラシバ(チカラシバの品種)。周囲にはメガルカヤ、オガルカヤ、チョウセンガリヤス、オオアブラススキなども健在です。



水草の花 2022.9.16

巡回の折に、大塚西公園の水草を見てきました。

黄色はイヌタヌキモ、白色はトチカガミ、どちらもあとから導入したのですが、池の雰囲気とマッチしていて綺麗でした。

イヌタヌキモにはショウジョウバエの仲間が訪花していました。(3 枚目)

また、水面から立ち上がる花茎はクロイトンボにとって都合が良いらしく、休憩する姿や連結産卵も見られました。(4 枚目)

一方、水を飲みに来ていたオオスズメバチとコガタスズメバチは、水面に浮かぶトチカガミの葉を足場としてうまく活用していました。(5、6 枚目)

池を彩る水草たちが、景観向上や水質浄化、水生生物の居場所としての価値のみならず、水辺を利用する陸地の生き物にとっても、大切な役割を果たしているように感じられました。



カライタドリ 2022.9.22

由木地区新産外来種の備忘録その1。

カライタドリ(*Fallopia forbesii*)は、これまでに青森県や長野県などで確認されている中国原産の外来種です。

ツルウメドキを全縁にしたような丸くて厚みのある葉、短い花序などが特徴。

堀之内沖ノ谷戸公園の北東側法面草地で開花・結実を確認しました。

どうやらかなりの厄介者らしく、日本のイタドリが海外で猛威を奮っているのと同様に、一度広まると根絶に10年はかかるそうです。

環境への影響としては、在来植物との競合や在来イタドリの遺伝的攪乱などの懸念があります。

一応、草刈りが入る予定の場所なのでとりあえず様子見とします。



ハタヨモギ 2022.9.22

由木地区新産外来種の備忘録その2。

ハタヨモギ(*Artemisia vulgaris*)は世界的に広く分布するヨモギの仲間で、オウシュウヨモギ=マグワートの名でハーブとしてもよく知られている種類です。

日本のヨモギ(カズザキヨモギ)より葉色が濃く、茎も赤っぽい印象。

堀之内東山はぐくみの森緑地の法面に点々と群生しています。

中世ヨーロッパでは、魔除けのハーブとして使われたほか、古来より旅行者の疲労回復と、悪霊と動物避けに用いられたそうです。

ローマの兵士たちは、疲労対策にサンダルに入れたとのこと、今度試してみますかね。



クロヤツシロラン 2022.9.26

26日の朝、よこやまの道旧道沿い竹林のクロヤツシロランが咲いていました。

全部で3株見つけられましたが、うち1つは終わりかけで、花に軽く触れただけでポトッと脱落してしまいました。残り2株は通常よりも色がやや淡い個体で、綺麗に咲いていました。

近くにはサンコタケやマツバランも発生していました。



エゾビタキ 2022.10.2

2日、朝からビッグイベントの発生で久々に鳥肌が立ちました！エゾビタキの群れの出現です。

そのつい5分ほど前まで、同僚のHさんに「ここ毎日、何をしてもエゾビタキいないかなあと木の梢ばかり見て歩いている」とぼやいていたところであり、余計にびっくりしました。きっと、執念が引き寄せたに違いありません笑。

全部で数十羽、築池堤防付近のコナラの梢でフライキャッチによる飛ぶ虫の採餌を繰り返したり、自然館下のクマノミズキの果実を食べたりと、サービス満点でした。

エゾビタキは、シベリアなどの北国で繁殖し、巣立った若鳥たちを引き連れて、秋にフィリピンなどの越冬地へ渡ります。日本は主に北半球から南半球へ向かう往路の通過点にあり、長旅の疲れを癒す“ドライブイン”となっています。長池公園はどうかというと、渡りのルートから外れているのか、滞在期間が短いからなのか、その姿を見ることは稀で、2010年10月10日の観察会中に3羽を確認した自身の記録が最後でした。

12年ぶりとなる出現の理由は定かではありませんが、昨年までキアシドクガの食害でほとんど実らなかったクマノミズキが、今年はキアシドクガの収束により、たわわに実を付けていることも一つの要因でしょう。

夜に渡りをするエゾビタキが今夜、次の中継地へ旅立ってしまうか、それとも、もうしばらくとどまってくれるのか、はてさて？



エゾビタキ 2022.10.3～10.8

2日に初認したエゾビタキの群れは、確認初日よりも数は減ったものの、3日～8日にかけてほぼ毎日確認されました。5日には体験ゾーンのクマノミズキでコサメビタキも観察されました。ウスバキトンボも続々と北上してきています。



オケラとコシオガマ 2022.10.4

一昨年に見つけた、堀之内寺沢里山公園保全ゾーン内のオケラが1株開花していました。公園アドプト団体の方が保護して下さろうとして、誤って地上部を刈り取ってしまうという珍事があり、昨年は花を見ることができませんでした。ともかく、無事でいてくれて良かったです。また、8月のパークキッズ活動で発見され、その後、大学インターンシップ生とマーキングを行った堀之内東山はぐくみの森緑地のコシオガマ大群落も無事に開花していました。結局、未だ法面の草刈りが行われていないため、保護した箇所だけでなく、草原のあちこちに数えきれないほど咲いていて壮観でした。



アマツバメ 2022.10.5

エゾビタキに続く、秋の渡り第二弾は夏鳥のアマツバメでした。

本日5日の午前中、10~20羽のアマツバメの群れが北の空から現れ、姿池や築池の上空を飛び交ったのち、南の方向に飛び去っていく、という状況が雨の降り出すまでの間、ほぼ絶え間なく続きました。

次々に現れては消えていくさまは圧巻で、何かと見上げている来園者もいました。

(6枚目の写真には12羽写っています。)

ちなみに昨年のアマツバメ観察日は9/23でしたので、今年は少し遅めの通過です。

名前はツバメですが、本家のツバメとは無関係で、ハチドリに近い仲間です。

大きな体でカマのような細長い翼と尾を持ち、物凄い速さで飛び回ります。

大きさや体型だけでなく、お腹側がほぼ真っ黒であることもツバメの仲間と見分けるポイントになります。



クマスズムシ 2022.10.12

堀之内沖ノ谷戸公園で4月に囲いを作って保護を進めてきたクチナシグサ群落。だいふ草が伸びてきたため、手入れを行いました。この区画だけに高茎草本が刈り残されていたため、鳴く虫の溜まり場と化していました。

主なものでは、オナガササキリ、ホシササキリ、ウスイロササキリ、ハヤシノウマオイ、セスジツユムシ、サトクダマキモドキ、ショウリヨウバッタモドキ、オンブバッタ、クサヒバリ、シバズ、ツヅレサセコオロギなどがいました。

そして、これまでの鳴く虫調査でなかなか出会う機会がなかったクマスズムシの雌を発見することができて幸運でした！

作業前に、ムラサキツメクサの三つ葉・四つ葉・五つ葉が揃って並んでいるのを見つけたおかげ・・・？

作業に参加した皆さんと、自然素材でリースを作ったり、クヌギのどんぐりを拾い集めたりと楽しい時間を過ごしました。



オオニガナ 2022.10.20

育休中に用事があり、久々に長池公園へ行くとオオニガナが見頃を迎えていました。

下から上までずらりと咲いた花には、ホシホウジャクなどが盛んに訪花していました。

そのほか、湿地ではサクラタデやアキノウナギツカミ、林縁ではナギナタコウジュや植栽のセキヤノアキチョウジが花盛り。

あちこちの笹藪から、「ジジジジ・・・」とササキリの声だけが聴こえてくる静かな夕暮れ時でした。



マガモ 2022.10.25

100名近い小学生が長池公園へ稲刈りを体験しに訪れたこの日、築池に冬鳥のマガモが8羽いました。渡り鳥ではありませんが、カルガモも20羽前後に増えて水辺はいつそう賑やかです。また、自然館そばのミズキには、渡去前のキビタキが飛来していました。そろそろ冬の小鳥と入れ替わる頃でしょう。7月に皆伐更新地で発見したハナヤクシソウの花を覗きに行きましたが、既に刈られた後で残念。(写真は発見時。) 付近の丸太に着生していた立派なハナビラニカワタケと、満開のオオミゾソバでお茶を濁しました。



大塚公園の一角でズミの木を見つけました。黄色く色付いた葉と赤い果実でその存在に気が付きました。長池公園などでも確認していますが、これらはいずれも植栽されたものか、それを小鳥が運んだ実生個体でしょう。東中野公園では久々にカワセミの姿。外周に1株だけ生育しているアカハナワラビは、まだ紅葉前で緑色でした。



オナガガモ 2022.11.6

11月のパークキッズレンジャー活動は、季節の見どころ調査とマップづくり。

築池には、オナガガモの雄(非生殖羽=エクリップス)が1羽飛来していました。

例年、長池公園には来たり来なかつたりという渡り鳥ですが、

数日ほどで別の場所へ移動してしまうことが多いため、記録として投稿します。

同じく築池に滞在中のマガモは12羽に増えていました。キンクロハジロも健在で賑やか。

手すりにはウスグモスズ。サルトリイバラやヤブサンザシの熟した果実、キンミズヒキの草紅葉が目を引きました。



バンディング 2022.11.10

専門学校の実習が始まり、初回はタマノカンアオイの個体数調査や手入れを行いました。
その延長で、第一デッキ対岸急斜面のリンドウ自生地の様子を見に行ってみると見事に開花していました。
一方、特別保全ゾーンではバンディングが実施されており、途中、実習生たちを連れて見学しました。
この日の放鳥数は計 18 羽でした。(メジロ 10・シジュウカラ 1・アオジ 2・クロジ 1・ヒヨドリ 1・ガビチョウ 3)
築池にはホシハジロの雄が新たに加わり、田んぼ脇水路ではエナガの群れが水浴び中でした。



マダラマルハヒロズコガ 2022.11.11

自然館周辺のツルグミがいつの間にか開花していました。

夕方、シナミザクラの樹名板の裏に、マダラマルハヒロズコガの幼虫がいるのを見つけました。

カタツムリの右にいる扁平なヒョウタン型の謎の物体がそれです笑。

散策中に昆虫の姿を見かけることはほとんどなくなり、樹名板をめくって歩く季節がやってきました。



晩秋の植物 2022.11.14

秋葉台公園の落ち葉清掃時に、花盛りのナワシログミ、成り年のシラカシ、返り咲きしていたコスミレを観察。
長池公園の第二デッキ湿地では、鮮やかなメギの果実が出迎えてくれました。



カントウマユミ 2022.11.17

第二デッキの階段を下りたそばで実を付けているマユミが変種のカントウマユミ(=ユモトマユミ)であることに気がきました。カントウマユミはやや山寄りに分布する変種で、由木周辺では柳沢の池公園や長沼公園などにありますが、マユミよりもずっと少ないものです。(追記:長池公園の特別保全ゾーン内でも確認。)

特徴は、葉裏の主脈と側脈に短い突起状の毛が密に生えている点で、対するマユミの葉脈はつるつと無毛です。並べてみると、葉がマユミよりも大きくて先はすらっと伸び、側脈もくつきりしている印象ですが、相対的な違いはあまりアテにしないほうが良いでしょう。(写真の左2本:カントウマユミ/右:マユミ)。



イロハモミジ 2022.11.18

鹿島緑地のイロハモミジが見事に紅葉していました。

由木地区では、他所よりも遅い11月下旬から12月上旬頃にかけて紅葉がピークとなります。

周辺ではあまり見かけないユウガギクが、林縁草地に咲き残っていました。



クロスジフユエダシャク 2022.11.24

初冬の雑木林の風物詩、クロスジフユエダシャクの雄が飛び始めました。
翅が退化し、葉の裏や手すりなどでじっとしている雌を求めて飛び回っているといえます。
ヤマゲワの枝にはキボシカミキリも姿を現しました。



トモエガモ 2022.12.4

築池にトモエガモが飛来しています。数日前からいるようです。

雄2羽と雌2羽が仲良く泳ぎ回っています。

周囲のマガモやカルガモよりも一回り小さく、すぐに見つけられます。

2020年～2021年にかけて群れが現れた時はとても話題になりましたが、

あのときほどではないにしても、しばらくはカメラマンが集まりそうですね。

なお、別のスタッフによれば、昨日はオオバンやホシハジロもいたそうです。

築池のほとでは、毎年おなじみのクワエダシャクがポツポツ見つかり始めました。



長池公園では旬の植物もだいぶ少なくなりましたが、南エントランス方面の散策がおすすめです。南エントランスゾーンに移植された御殿峠産のジャケツイバラは今年、やっと花を咲かせました。今の時期はどうなっているかという、トゲトゲの枝をよく見ると、冬芽の兄弟が身長順に並んでいます。小さいほうの2つは予備芽といって、長男坊の芽が食べられたりうまく成長できなかつたりした際の、いわば保険のような役割を果たしています。このような予備芽を持つ植物は、他にはあまり例がありません。駐車場の周囲では、背の低いカンツバキ「獅子頭」と背の高いタチカンツバキ「勘次郎」が見事に咲き誇っています。「獅子頭」の花は洋バラのように花の中心が隠れており、対する「勘次郎」は花の中心がはっきり見えています。どちらもよくサザンカと間違えられていますが、ツバキとサザンカの間近な特徴を持った栽培品種です。ドウダンツツジの鮮やかな紅葉、芝生に顔を出しているフユノハナワラビ、たわわに実ったマユミなども見頃でした。



ジョウビタキ 2022.12.7

3年連続で10月21日が初認日だったジョウビタキ。

以降、何度も姿は見かけていましたが、カメラを向けたのは今季初です。

堀之内寺沢里山公園の田んぼへ向かう道すがら、じっくりと観察できました。

田んぼのほとりで見かけたヒヨドリジョウゴは、茎の白毛が西日に輝いていました。



ムラサキシジミ 2022.12.12

決して珍しいチョウではありませんが、会おうとつい足を止めてしまうのがムラサキシジミ。

やはり生き物たちの魅せてくれるブルーは、どれも息を呑む美しさです。

つくいけの道では、黄金色に輝くエンコウカエデの黄葉やウグイスカグラの開花第一陣が見頃です。



トモエガモ 2022.12.16

夕方の鍵閉めをつくいけの道を往復した際に観察できた野鳥の情報です。

- ・トモエガモ(雄2羽・雌2羽)
- ・キンクロハジロ(雌2羽)
- ・マガモ(複数羽)
- ・カワセミ(1羽)
- ・ジョウビタキ(雌1羽)
- ・アオジ(複数羽)
- ・エナガ(複数羽)

午前中、下柚木小学校の学校林での出張授業中に見つけた“ナマケモノ”(クズの葉痕)もおまけで掲載。



コミノネズミモチ 2022.12.19

九兵衛坂公園の階段沿いで、今年もコミノネズミモチが実をたくさん付けていました。

多摩ニュータウンでは、公園樹や街路樹として各地に植えられている低木です。

ヒヨドリなどの小鳥によって運ばれ、樹林内などへ逸出状態にあるものもよく見かけます。

実はネズミモチ、葉はイボタノキに似ており、シナイボタの別名もあります。(※セイヨウイボタは別種なので注意。)

話は変わりますが、今シーズンはイカルの群れをよく見かけます。

長池公園では数羽～10羽ほどの集団があちこちを飛び回り、エノキの実などをついばんでいます。



ロウバイ 2022.12.27

長池公園の南エントランスではロウバイが見頃となり、辺り一面に芳香が漂っています。

また、その近くではセンダンの大木が見事に実をぶら下げており、壮観です。

夕方、園内を走る軽トラの前にコジュケイやガビチョウの群れ。

コジュケイは次々に垂直ジャンプを繰り返し、草の種をついばんでいるようでした。

築池のトモエガモはまだ4羽とも健在で、このまま年を越してくれそうな予感。

さて、いよいよ明日 28 日は今年の仕事納めですよ。皆さん、良いお年を！

